

令和2年6月15日

公立大学法人 都留文科大学
理事長 福田 誠 治 殿

監 事 宮本和之 
監 事 渡辺和廣 

監 査 報 告 書

公立大学法人都留文科大学監事監査規程第3条及び第5条第1項の規定に基づき、令和2年6月12日に公立大学法人都留文科大学の令和元年度下半期における業務の執行について定期監査を実施したので、同規程第10条第1項により、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 監査方法の概要

都留文科大学において関係職員から業務の執行状況について報告を受け、提出された監査調書等により監査を実施しました。帳票その他証拠書類の原本及び現物の照合確認並びに担当者からの概況聴取・質疑応答などの方法により実施いたしました。

会計監査については、財務諸表(貸借対照表、損益計算書、合計残高試算表)などを確認するとともに、事業年度内の特徴ある取引については、関係書類・帳票等の提示を求め、関係部署の担当者から説明を聞くなどして会計内容を監査いたしました。

業務監査については、中期計画に掲げられている120項目に対応した年度計画171項目の進捗状況等の報告と質疑応答により業務内容を監査いたしました。

2. 監査結果の概要

業務の執行は、適正に行われていると認められる。年度計画の進捗についても概ね順調であると認められる。

3. 是正又は改善を要する事項

(1) 会計監査

① 経常費用と経常収益について

令和元年度の経常費用は29.3億円で、前年度の31.1億円から1.8億円減少している。一方、経常収益は、31.4億円で前年度の32.1億円から0.7億円減少している。

その結果、経常利益は2.1億円で前年度の1.0億円から1.1億円増加しており、収益性は改善傾向にある。今後もこの傾向を維持することが望まれる。

② 業務費について

令和元年度の業務費は27.4億円で、前年度の29.3億円から1.9億円減少している。業務費の経常収益に対する比率は87.3%で、前年度の91.4%から減少している。今後も、節約できるところは節約していくという姿勢を維持していただきたい。

③ 一般管理費について

令和元年度の一般管理費は1.9億円で、前年度の1.8億円から0.1億円増加している。一般管理費の経常収益に対する比率は6.0%で、前年度の5.4%から微増している。一般管理費についても、節約できるところは節約していくという姿勢を維持していただきたい。

(2) 業務監査 (※【No.】は、中期計画の最小単位に付している番号。)

- ① 令和元年度の年度末に近いあたりからコロナ禍が多方面に及び、教育関係においてもその影響は少なくなかったと思います。このような状況下でありながらも、年度を通してみると、年度計画に掲げられた各項目について概ね達成となる評点3以上の占める割合が90%を超え、大項目別評価でAとなったことは評価でき、第2期中期計画の進捗は順調といえます。第2期中期計画の最終年である令和2年度は有終の美を飾ってほしいと思いますが、コロナの先行きが全く読めませんので、あるいは目標達成の厳しい部分も多く出てくるのが予想されます。心して業務の遂行にあたられますことを希望します。
- ② AO入試でのWeb出願システム【No.9】を引き続き検討中のようではありますが、Webによる手続きは時代の流れですから、ぜひ実現できるよう願います。
- ③ 少子化時代の大変な中でも、入学志願者数5,000名以上確保の目標【No.10】について9割は達成されておりますが、引き続き高校訪問の拡大、オープンキャンパスの充実を図りつつ、これらがコロナの影響で中止等余儀なくされたときも別途の企画や工夫をして入学志願者の増員に努めていただきたい。
- ④ 【外国語教育をより効果的、実践的なものとする】との項目【No.17】が評点1であることが気になります。原因の究明と対策を検討されているとのことなので、交換留学協定校の拡大に努めるなど、TOEIC-IPやTOEFL-ITP試験を受けることのメリットを学生が感じられるような対策を再検討願います。
- ⑤ 専攻科の目標【No.25】達成が低いことについては、以前にも指摘しておりますが、1年学ぶメリットを学生に理解させるよう周知を図り、増員を期待します。
- ⑥ 大学教育は、自ら学ぶことが基本だと思っており、「学び続ける力」を培うことは

大切なので、学生の学ぶ意欲を引き出すきっかけとして、図書館や情報処理講座の充実に引き続き期待します。

- ⑦ 学生の就職に関する各項目の評点が高いことを評価します。就職状況は、大学への評価に関係し、入学希望者にも影響を与えますので、コロナで令和2年度は厳しさが予想されますが、学業の支援、経済的支援共々引き続き努力をお願いします。
- ⑧ 教育機関であるとともに研究機関でもある大学は、出版や外部資金の獲得で評価される部分もありますので、条件緩和、目標設定の見直しなどによって評点1【No.60・65】からの脱却を図っていただきたい。

以 上